

関西歌劇団プロフィール

1949年春、指揮者 朝比奈 隆を中心に関西の音楽家が集まり、旗揚げ公演「椿姫」で発足しました。その後グランドオペラを中心にした定期公演のほか数々の公演を行ってまいりました。1954年、歌舞伎調の「お蝶夫人」公演を機に爾来、「夕鶴」や「修禅寺物語」、「赤い陣羽織」（100回上演）といった邦人作品の初演にも力を注ぎ、創作オペラのメッカといわれました。近年は約250名の団員を有して、創作ものを含め年3回の自主公演を柱に、常に注目すべきオペラ活動を展開していますが、92年よりミラノから指揮、演出、ソリストとともに装置、衣裳を直輸して「カヴァレリア」と「パリアッチ」、93年には「ラ・ボエーム」、94年「カルメン」「リゴレット」を日伊合同上演、95年はワルシャワ国立歌劇場と「ハルカ」の合同公演。96年日伊合同「お蝶夫人」や97年の「トロヴァトーレ」は絶賛されました。98年には本団創立50周年記念公演として日伊共同制作のグランドオペラ「アイダ」を劇団員総出演でフェスティバルホールにて上演し大成功をおさめました。2003年には「アドリアーナ・ルクヴール」で文化庁芸術祭優秀賞を受賞。また貴志康一物語「ベルリンの月」（創作）や、2000年には田辺聖子台本の「源氏物語」を創作するなど、わが国のオペラ振興運動を推進しています。2006年に（NPO法人）関西芸術振興会が発足し、協働関係として新たに出発しました。2010年には「フィガロの結婚」で大阪文化祭奨励賞、「リゴレット」で主役の田中勉が文化庁芸術祭優秀賞を受賞。その活動は高く評価されています。

文化庁芸術祭優秀賞受賞。兵庫県文化賞受賞。大阪府民劇場賞5回、同奨励賞1回。
大阪市民文化祭芸術賞2回、同奨励賞1回。大阪文化祭賞5回受賞。

フォトオペラとは

“お手ごろな料金なのうれしい～ 写真を使ってわかりやすい！ オペラが楽しめる！”

クラシックやオペラになじみのない人でも思う存分楽しめるのはもちろん、オペラファンも見たことがないような新しい仕かけが満載です。さらに上方落語の要素も取り入れた語りを入れ、おもしろい場面描写になっています。

「オペラの最大の魅力である、マイクを通さない生の歌声と、ドラマの素晴らしさをより多くの人に」がコンセプトです。

物語の情景に合わせた“Foto（写真）”をスクリーンに投影し、紙芝居のような仕かけを駆使して展開いたします。本格的なオペラと同じく生の歌声を満喫していただけます。

【惚れ薬騒動にて候～オペラ「愛の妙薬」より～】

～あらすじ～

突然現れた恋のライバル！！大好きな娘さんからの愛を得るために、気弱な青年がなけなしのお金で薬売りから買ったのは惚れ薬。この惚れ薬の凄いところは、相手に飲ますのではなく、自分が飲んだら愛して貰えるというところ。ところがどっこい、実はその薬は南蛮渡来の葡萄酒でした。薬売りはいかさま師だったのです。惚れ薬の効果を信じて疑わない青年はどうになってしまうのか！？

オペラ「愛の妙薬」を元にお届けする、Foto Opera『惚れ薬騒動にて候』

マイクを使わない生の歌声で奏でられる音楽と、オリジナルのFoto（写真）でお楽しみ下さい。

第一部は関西歌劇団のオペラ歌手たちによる歌の競演をお楽しみ下さいませ。

題字作成：富田充康（画家）

Mitsuyasu Hatakeda

1997年より大阪を中心に個展やライブペイントなどを行いながら、墨を使ったロゴデザインやグラフィックデザイナーとして活躍。2004年より2年半の間、Parisにアトリエを移動しモデルを使った人物画を中心に活動。帰国後、大阪でのアート活動再開とライブペイントグループ”NANIWA INK.”を結成。2009年イタリアでの個展をきっかけにヨーロッパと日本の文化の融合を試みる。2015年、もう一度ヨーロッパでの活動を再開するためイタリアへ移住。現在、北イタリア、ブレーシャにて活動中
<http://www.moment.jp>。